

第2回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

1 開催日時

平成27年7月27日（月） 午後3時30分～午後5時5分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第3学習室

3 出席者

委員 5名

影山部会長、伊藤委員、小山田委員、折居委員、高橋委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：農業生産の支援

- ・ 成果指標「振興作物の栽培面積」について、栽培面積の作物ごとの目標はあるのか？
→ なし。農協とともに出荷・販売状況を見ながらである。
- ・ 平成26年度は成果指標をクリアしているようだが、大雨の影響などはなかったのか？
→ 作付けは行っているが、やはり出荷量は落ちている。
- ・ 振興作物の品目を増やせば栽培面積も増えるのではないのか？新たな取り組みはないのか？
→ この成果指標上は出てこないが、別の水田活用（転作対応）への助成事業などがある。
- ・ 平成26年度の実績値（3,975ha）がすでに平成28年度目標値（3,900ha）を上回っているようだが？
→ 作付け農家は担い手だけではないため減っていくことが予想されるし、ほかの作物に移ったりして現状維持が困難となる可能性がある。
- ・ 成果指標「振興作物の栽培面積」は農家所得の向上に直結しているか？
→ 一概には言えないが、産地として認められることが市場での強みとなるため、ある程度は安定する。アスパラガスなどは花巻市の知名度が高く、単価も高いため有利である。
- ・ 6次産業や地域ブランド化など、PRの方策は？
→ ひえカレープロジェクトなどのように、商工会議所が主となり、市や農協もバックアップしている。また、観光との連携も大切である。
- ・ 事務事業の施策への貢献度について、直結度がAで成果がCというのはどう考えるか？努力が足りないように見えてしまう。
→ 事務事業の成果指標に販売額を使っていたりすると、どうしても市況に左右される。
- ・ 有害鳥獣対策事業は直結度がCだが、直結度は高いのではないか？
→ 考え方によっては栽培面積増に直結するが、あくまで、被害があった場合に対処する事業。自然保護団体などからすると、良くないイメージの事業でもある。今後の検討課題。
- ・ 平成25から26年度の作物ごとの増減は把握しているか？

- 加工用米が最も大きく伸びており約 250ha の増、麦・大豆・飼料作物が現状維持、雑穀が微減、野菜が微増。
- ・ 集落営農や担い手への農地集積の進み具合は？
- 集積率は平成 21 年度 54.9%→平成 26 年度 61%となっている。
- ・ 資料の「農業経営支援策活用ガイド」はどこまで配布しているのか？
- 市HPで公表しているほか、担い手には認定農業者協議会で配布している。また、農家が相談に訪れた際の説明に使用している。
- ・ 首都圏から就農する人にも役立つのではないかと？
- 青年就農相談にも使用している。

◆成果指標について

- ・ 栽培面積が指標となっている理由は、単に収益性のある作物を作れば販売金額が上がるというのではなく、安定供給できないと市場での評価が得られず収益をあげられないためであるが、その理屈がわかりにくい。補足説明が必要と思われる。
- ・ 「収益性が高い」ことがわかる指標でほかに良いものはないか。
- ・ 作物ごとに個別にとはいわないまでも、たとえば、米系と米系以外のように内訳を示すことはできないか。また、栽培面積が最大のもの1つだけでも収益高を示すことはできないか。
- ・ 畜産関連の指標もあった方が良いのではないかと。

◆事務事業について

- ・ 添付資料の「平成 27 年版農業経営支援策活用ガイド」については、特に事業化されていないが、作成することだけでなく広く配布して活用してもらうことが重要なので、これ自体を事業化してはどうか。
- ・ 有害鳥獣対策事業（一般行政経費）については、施策への貢献度（直結度）C判定だが、直結するものと思われる。事業化を検討すべきではないかと。

◆施策の総合的な評価について

- ・ 施策の達成度A判定の分析を見ると、別施策「担い手の育成」の中の担い手への農地集積による成果であり、この施策に関わる事務事業の成果ではないのではないかと。連携するものであることは承知しているが・・・。
- ・ 事務事業レベルの成果ではC判定が多いが、施策の達成度がA判定というのがわかりにくい。

◆その他

- ・ 事務事業の指標については、変えた方が良いのではないかと。市況に影響される販売高を成果指標に使用することにより、事務事業レベルの成果がC判定となっている。（⇒一方で、農業の現実としてこういうことが起きるのだから良いのではないかととの意見もあり。）

第2回行政評価委員会会議録（暮らし部会）

1 開催日時

平成27年7月30日（木） 午前10時00分～午前11時45分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第3学習室

3 出席者

委員 5名

鈴木部会長、佐藤委員、尾美委員、戸来委員、高橋委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：道路環境の充実

- 道路整備は、自治体の業務として大きなもののひとつである。道路整備計画について、市民から不満や要望があると思うが、どのような計画を立て対処しているのか？基本的な考えを教えてください。

→ 平成19年度から土木施設整備要綱を策定し、毎年度、コミュニティ会議や区長会などの各区域から区域内の整備について要望を提出してもらい、その後現地調査を行ったうえで全体的に判断し整備及び維持管理に振り分け対処している。不満はあると思うが、市内の各コミュニティに赴き、状況や予算との兼ね合いを説明しながらご理解を頂いているところである。

- 道路の整備は防災とも絡んでくるため、その分の予算もつける必要があるのでは？

→ 道路整備の中で、防災を組み入れられるものは含めながらやっている。災害が発生すれば、災害復旧として別枠でやっている。

- 高木地区の歩道がデコボコしているところがあり、歩行者や自転車を使用する学生や高齢者にとっては危険である。コミュニティでの話し合いも必要だが、優先順位を付けて整備することも必要なのでは？

→ バリアフリー化をして、車道と歩道の段差をなくすように整備を計画しているところである。

- 朝日橋の塗装に4年も必要なのか？

→ 今塗ってある塗装を剥いで塗り直すので、どうしても時間がかかってしまう。

- 除雪費に対して国から交付税はあるのか？

→ 基本的には市の単独費。豪雪があれば国の算定基準に基づき交付され、平成26年度は約3,600万円が交付された。

- ・ 旧国道に係る整備費に対し、国から補助はあるのか？
- 管理者が市に移管されれば、国からの補助はない。
- ・ 除雪回数のカウントの仕方を教えてほしい。
- 1回でも出動すればカウントしている。

◆成果指標について

- ・ 取り組んでいるということが見えるので、成果指標の項目は適切である。
- ・ 成果指標の単位を変えたほうがいい。パーセント表示では実際の距離数が見えずわかりにくい。キロメートル表示として実数地を示したほうがわかりやすい。

◆事務事業について

- ・ 目指す姿の実現に貢献する事業として必要十分であり適切である。

◆施策の総合的な評価について

- ・ 施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっている。

◆記載内容について

- ・ 成果指標を読み取ることができる基礎数値を示してほしい。
- ・ 複数ある資料を1枚にまとめることはできないだろうか。
- ・ 成果指標の達成状況の表現方法を断定的にしたほうが望ましい。達成度が a の場合は特に。「考えられる。」という書き方は第三者的に感じる。例えば「～が主な要因である。」などとすればよいのではないか。

◆評価シートの構成・項目について

- ・ パーセンテージで評価するのであれば根拠となる基礎数値を示してほしい。

第2回行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

1 開催日時

平成27年8月4日（火） 午後1時30分～3時00分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第3学習室

3 出席者

委員 5名

堀籠 部会長、福盛田 副部会長、中村 委員、木村 委員、佐々木 委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：芸術文化活動の推進

・芸術文化推進事業で行っている小学生アートセミナーは年何回実施しているのか？小学生が芸術文化に関するものに参加できるのはこの事業だけか？

→夏休み期間中に実施しており、2日間の開催。定員120名で行っている。小学生が芸術文化に関するものに参加する機会はこの事業以外にもある。

・夏休みだけでなく、冬休みも企画してはどうか。

・施策には5つの事務事業が関係しているが、この中で新しく取り組んだものはあるか？

→芸術文化推進事業で行った市所蔵美術品の貸し出し

・施策の成果指標「市民芸術祭参加者数・入場者数」を見ると、目標値を若干下回っている。これは少子高齢化の現在、仕方のないことかもしれないが、どう分析しているか？

→将来的に芸術文化活動に参加する市民の数が増えるよう、小学生のころから芸術文化に親しんでもらう等して底辺の拡大を図りたい。

・子供たちが芸術文化活動に参加しやすい工夫が必要では？

・子供たちにもっと芸術に関心をもってもらうよう、有名な方の作品を展示する等も必要ではないか？

・故 内村皓一 氏（写真家）の作品が花巻に寄贈されているはずだが、活用についてもう少し考えてほしい。

・文化会館の自主事業、入場者数の減が気になる。入場者が少なくても惰性で行っている事業があるのではないか？文化会館主催事業の評価がCの理由は入場者数が少ないからか？

→アンケートで満足度調査をした結果による。入場者数が少ないのは主催事業のチ

ケット料金が高いのも一因かもしれない。

- ・文化会館の自主事業は誰が決めているのか？図書館の場合、運営等に関して協議会が設置されているが、文化会館は協議会のようなものがあるのか？

→設置されていて、自主事業企画の際も協議を行っている。

- ・文化会館は花巻の文化のシンボルであるべきで、文化会館の活性化は重要である。
- ・芸術文化に関する市の事業に、市職員はもっと積極的に参加してほしい。

◆成果指標について

- ・目指す姿に沿ったものとなっており、目標値の設定は適切。
- ・目標値である「市民芸術祭参加者数・入場者数」については、年齢別でとらえることも必要ではないか。
- ・達成状況については的確な分析となっている。

◆事務事業について

- ・目指す姿の実現に貢献する事業として妥当であり、引き続き市の関与が必要。
- ・施策への貢献度Cの2事業（芸術文化推進事業のうち文化会館主催事業、芸術文化促進支援事業）については成果の向上を図るよう企画の工夫などが必要。
- ・子供たちに芸術文化について働きかける事業や、若者が芸術祭に参加しやすいような事業展開があってもよい。

◆施策の総合的な評価について

- ・施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっている。

◆記載内容について

- ・事務事業評価シートの「成果指標の達成度の要因分析」欄の「目的妥当性」「有効性」「効率性」「公平性」について評価する箇所について、評価結果と評価の分析内容がかみあっていないことがある（例：「向上余地がある」との評価に対し、説明が「身近な場所で気軽に芸術文化にふれることが可能となる」など）。